

令和2年度

# 小市保育園自己評価票

記入者：佐々木 徹英 クラス：—

保育方針	<p>○豊かな自然に恵まれた環境を活かし、四季を通して遊ぶ中で知性と感性を育む保育を行います</p> <p>○仏様に手を合わせる中で、自らを省みること、自分と自分を支えてくれる存在を大切にすることの尊さを伝え、思いやりと感謝の心を育む保育を行います</p> <p>○子ども達の「やってみよう！」の気持ち、好奇心と自主性を尊重し、適切な援助を行うことで「できた！」につなげる保育を行います</p> <p>○子ども同士の関わり合いが深まるよう、言葉による援助や環境構成に配慮した保育を行います</p>	保育目標	<p>○身の回りにある「いのちあるものの存在」に気付き、それを等しく大切に子ども</p> <p>○「ありがとう」と「ごめんなさい」の気持ちを素直に伝え、友だちと共に成長し合う子ども</p> <p>○何事にも意欲的に取り組み、様々な挑戦を繰り返す中で自信を育み、自立心を備える子ども</p> <p>○お話をよく聞き、思いを伝え合う中でお互いを認め合い、一人一人が持つ自由な創造性を集団の中で更に深める子ども</p>
------	--	------	--

評価項目	評価内容	前期: 4月～9月		後期: 10月～3月	
		評価	取り組み状況	評価	取り組み状況
保育の内容について	・保育課程・保育目標・保育指導計画等は、定期的に評価見直しを行っている。	A	昨年度末の課題検討会を経て、検討結果を反映した。	A	クラス担任が作成したものを主任保育士が内容を確認。適宜助言を行い、最終的に園長が承認。
	・保育目標は全職員で検討することで共通理解を図っている。	A	職員会の都度、園の方針を伝えるよう努めた。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・指導計画は、子どもの実態を踏まえ発達過程に応じ作成している。	A	前年度の子どもの様子を踏まえ、見直しを実施。	A	同上
	・子どもへの援助・支援は、保育指針に基づき適切に行っている。	A	保育指針に基づき行った。また、昨年度から継続している作業療法士の定期的な訪問を取り入れ、いわゆる気になる子に対して適切な関わり方ができるよう、助言を受けた。	A	同上
	・環境構成は、保育や子どもの発達過程を常に意識し工夫している。	A	コロナ対応のため、室内環境の改善を行った。	A	同上
	・行事はねらいを明確にし、計画や実施に十分生かしている。	A	昨年度の反省を踏まえ、行事の見直しを実施。また、慣例的な行事であっても改めて、行事の目的を再確認した。	A	同上
	・障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育内容や対応に配慮している。	A	指導計画の中で障害児に対する保育は個別の項目として検討・配慮している。また、作業療法士等に定期的に発達相談を行い、適切な関わり方となるよう配慮した。	A	同上
	・小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて保育の内容や方法など、保護者に伝えている。	A	昨年度の公開保育等の取り組みを踏まえ、アプローチャリキュラムの内容を見直した。	A	前期に見直した内容に基づき保育を行った。
健康・食育及び安全について	・子どもの健康管理は一人一人の健康状態に応じ対応している。	A	園独自にコロナ対策のガイドラインを作成し、園内での二次感染対策を整理し、日々の健康管理に役立てた。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・緊急時(事故、感染症の発生時など)における子どもの安全確保のための体制を整備している。	A	昨年度作成した事故防止マニュアルを元に園内研修を実施した。	A	同上
	・子どもの安全確保のために防災に対する計画を立て定期的に訓練を実施している。	A	年度当初、消防署に届け出た計画に基づき避難訓練を実施。	A	同上
	・健康や安全な生活に必要な習慣が身に付くための援助と共に家庭への情報提供を行っている。	A	園だよりや個別の相談を通じて情報提供を行った。	A	同上
	・楽しく食事ができるような配慮や環境の工夫をしている。	A	クラスごと、3歳以上児はグループ分けも定期的に行い、楽しい食事環境の構築に配慮した。またコロナ対策のため、テーブル配置の見直しや、卓上パーテーションにより飛沫対策を講じた。	A	同上
	・食物アレルギーの対応や誤食防止に配慮している。	A	入所時にアレルギーに関する聞き取りを行い、調理員との連携も行き適切に対応した。	A	同上
子育て支援について	・保護者からの子育てに対する相談や意見などには適切な対応・援助を行っている。	A	作業療法士からの助言も取り入れ、就学相談が必要な子については保護者に適宜打診した。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・地域の関わりを大切にし、おひさま広場、育児相談、一時預かりなど積極的に取り組んでいる。	C	園開放がコロナの影響により、予定していた11回のうち、2回しか実施できなかった。	C	前期同様コロナ禍のため活動ができなかった、
職員の資質向上について	・計画的に園内研修を行っている。	D	コロナの影響により研修機会が激減。昨年度に比し研修受講受講数が大幅に減ってしまった。またキャリアパスの運用に向けた勉強会もストップしてしまった。	C	前期に引き続き研修が受けづらい状況が続いたが、オンライン研修などは積極的に活用した。
	・諸研修の成果を保育に生かし、子どもの育ちに反映している。	B	研修機会が減ってしまったため、例年のような取り組みは出来なかったがYYプロジェクトの総合指導や作業療法士の訪問による助言は受けられ、保育内容の見直しがある程度は出来た。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・自己評価・第三者評価を定期的に行ない保育の改善に努めている。	B	自己評価を継続して実施。保育の改善に努めた。第三者評価については未実施。	B	第三者評価については引き続き未実施。生活発表会については保護者アンケートを実施し、改善に役立つ情報の収集が出来た。
運営・管理について	・保育所の課題について共通理解を深め、協力して改善に努めている。	B	職員会を通じ園が抱える課題について共通認識を行っているが、今年度は純粋は保育内容の見直しというよりもコロナ化における対応を協議する時間が多かった。	A	長引くコロナ禍での保育となったが、初めての取り組みとなった生活発表会は子どもたちが達成感を得られる行事となったようで、手ごたえを感じた。
	・職員会を適切かつ効率的に進めている。	A	月2回程度職員会を実施。職員の負担軽減を目的に、夕方ではなく昼間(13:30～14:30)に実施。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・守秘義務、法令の遵守をし、個人情報の取り扱い及び苦情解決など、適正かつ適切に行っている。	A	第三者委員の設置とともに苦情対応窓口を設置し適切に行った。	A	同上
	・施設内外・設備・遊具などの安全点検を計画的に行っている。	A	環境点検表に基づき、毎月安全点検を行った。コロナ対策のため、卓上パーテーションを必要数購入した。	A	同上

評価	目安	前期総合評価	今後の課題と改善策	総合評価	評価理由
A: 十分に達成されている	90～100%	<b>B</b>	<p>・コロナ禍という困難な状況下ではあるが、園独自の感染症対策ガイドラインの策定をするなど、職員・保護者にその内容を発信できたことは大きかったように思える。今後は実際の経験を踏まえガイドラインを更に見直す必要がある。</p> <p>・今年度からの新たな取り組みとなる生活発表会に向け、行事の目標とすることを改めて見直し、具体的な話を詰めていきたい。</p>	<b>A</b>	<p>・長引くコロナ禍のため、不自由な中での保育を強いられたが、それでも出来る限りの保育はできたように思える。中でも初の開催となった生活発表会は職員の積極的な協力のお陰もあり、非常に内容の良い行事となった。</p> <p>・今年度からコードモンのアンケート機能を活用が進み、保護者の意見を汲み取りやすくなった。まずは生活発表会の感想の集計に役立てたが、今後も活用を進め保育内容の改善に繋げていきたい。</p>
B: ほぼ達成されている	70～90%未満				
C: 取り組んでいるが不十分	50～70%未満				
D: 取り組みが不十分	50%未満				

※クラスによっては評価項目が該当しないものもあります。その場合は評価欄は「—」と記入してください。